



< 血液浄化センター >

概要

当センターは昭和 46 年 3 月に透析ベッド 13 床で開設し、平成 8 年 5 月新病院移転後 22 床にて運営し、平成 13 年 4 月業務内容の拡大に伴い名称を人工腎臓センターから血液浄化センター（Blood Purification Center: BPC）に改称した。現在は、移植外科医 2 名（平成 9 年 4 月～ 大塚聡樹医師、平成 22 年 1 月～ 長坂隆治医師:名古屋第二赤十字病院移植外科より）、腎臓内科医 2 名（平成 20 年 4 月～ 山川大志医師:袋井市民病院腎臓内科より、平成 22 年 4 月～ 増田智広医師:名古屋大学医学部附属病院腎臓内科より）の計 4 名で管理されています。

当センターの業務は、慢性腎臓病者の透析導入、および病態に応じた透析維持管理、関係各科と連携して血液浄化療法（緊急透析、血漿交換、選択的血漿成分吸着療法:コレステロール吸着、ビリルビン吸着、顆粒球単球吸着など）を行っている。ブラッドアクセスの作製およびトラブルの診断・治療、二次性上皮小体機能亢進症の内科的治療と外科的治療法:上皮小体全摘術及び自家移植術、生体および死体腎移植術および術後免疫抑制療法や移植腎機能評価・管理、合併症の診断治療を腎臓内科と移植外科で行っています。

平成 22 年 4 月 1 日に当院の標榜科改定に伴い、新たに移植外科が加わり、外来診察室を 1 階外来 (3) 番受付に新設し、診療日を週 3 日に増やしました。

当院は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号）」の第 10 条第 1 項に基づき定められた愛知県感染症予防計画において第二種感染症指定医療機関の指定を受けており、愛知県下には 161 透析施設があるが感染症指定 10 施設中血液浄化療法施設は 6 施設で、結核については県内指定 8 施設中 4 施設のみ透析施行施設であり、そのうち 3 施設は名古屋市と瀬戸市にあり、当施設は愛知県東部地域を診療圏として、通常診療圏外からの感染症合併透析者を受け入れている。また、近年、勤務医の大学への引揚げなどにより周辺医療機関（総合病院）の腎不全医療関係の医師の減少、診療科の閉鎖に伴い、当院への関連する重症患者の搬送が増加している。重症者は外来維持透析者に比し、医療資源が 3-5 倍掛かり現状のスタッフでは限界があるが、基幹病院としてその責を果たすべく最善を尽くしていきます。

移植医療に関しては、死体腎移植は 1 件あり、受腎者は血液透析を離脱し、社会復帰した。

本年の透析を含む血液浄化件数は 5181 件であり、SLE、TTP 等の自己免疫疾患や、ギラン・バレーの神経疾患に対しての血漿交換等の血液浄化療法は 44 回おこない治療効果をあげています。顆粒球吸着療法やリンパ球吸着療法は、消化器内科、整形外科により 141 回行われ、

ステロイド抵抗性の潰瘍性大腸炎やクローン病、難治性の慢性関節リウマチに対し治療効果をあげています。

当院は、腎不全医療の総合的医療機関として、また、脳死下臓器移植、心停止下臓器移植および臓器・組織提供病院として貢献することを目指していきます。

昭和 46 年	3 月	透析ベッド 13 床で開設。
平成 8 年	5 月	新病院移転。22 床に増床。
平成 10 年	1 月 27 日	当院初の腎臓移植を生体間で施行。
	2 月 25 日	日本臓器移植ネットワークに入会、死体腎移植施設に登録。
	7 月 22 日	シャント閉塞に対し経皮的血栓除去術を導入。
	12 月 22 日	腎提供を受け死体腎移植 1 例目を施行。
平成 11 年	8 月	小児科と連携し東三河ではじめての小児への生体間腎移植を施行。
	6 月	死体腎移植 2 例目
	11 月	小児科と連携し生体間腎移植 2 例目を施行。
	10 月 29 日	日本透析医学会の透析認定施設に認証。
平成 12 年	8 月	消化器内科疾患の潰瘍性大腸炎に対する顆粒球単球吸着療法を開始。
平成 15 年	10 月 18 日	厚生労働大臣感謝状授与（臓器不全対策推進についての功績）。
平成 18 年		保険収載により慢性関節リウマチに対してリンパ球吸着療法を開始。
平成 22 年	12 月 18 日	改正臓器移植法施行後三河地方ではじめての脳死下提供による死体腎移植を施行。
平成 23 年	3 月 29 日	当院初の ABO 血液型不適合間での生体間腎移植術を施行。

(1) 血液浄化件数(2010/1/1 - 2010/12/31)	
総件数	5181 件
外来維持透析	2818 件
入院維持透析	1930 件
隔離患者透析	2 名
センター外 ICU 等	262 件
血液浄化療法(透析を除く)	185 件
顆粒球等吸着療法	141 件
CHDF時間総数	3359 時間 (患者1人あたり平均 112 時間)
(2) 透析導入・離脱・死亡者数	
慢性腎不全	74 名
他院紹介転入	148 名
死亡退院者数	29 名
離脱	13 名 (腎移植へ 1 名)

(維持透析施行者で他科が主科の者を含む)

業績

- 学会・研究会発表
- 講演
- 論文
- 著書

学会・研究会発表

1. 高 Ca 血症を呈した1例
稲垣大輔、増田智広、山川大志
第 69 回名古屋腎疾患研究会(名古屋)2011.5.25
2. 全身性エリテマトーデスとの鑑別に苦慮したパルボウイルス感染症の1例
杉浦実咲、増田智広、山川大志
第 216 回日本内科学会東海地方会(名古屋)2012.2.4
3. 術前バーチャルクロスにより献腎移植しえた症例
豊橋市民病院 移植外科 1)、名古屋第二日赤 移植外科 2)、長坂隆治 1)、
渡井至彦 2)、後藤憲彦 2)、平光高久 2)、山本貴之 2)、南木浩二 2)、山永成美 2)、
岡田 学 2)、大塚聡樹 1)、打田和治 2)
第 44 回日本臨床腎移植学会(宝塚)2011.1.26～28
4. 抗体関連拒絶反応制御のためにDSA定量は意義があるか？
名古屋第二赤十字病院 腎臓病総合医療センター1)、
名古屋大学免疫機能制御学講座 2)、増子記念病院 3)、豊橋市民病院 4)、
山永成美 1)、渡井至彦 1)、小林孝彰 2)、片山昭男 3)、泉 久美子 1)、岡田 学 1)、
野畑宏信 1)、山本貴之 1)、平光高久 1)、辻田 誠 1)、南木浩二 1)、後藤憲彦 1)、
後藤芳充 1)、植木常雄 3)、長坂隆治 4)、大塚聡樹 4)、武田朝美 1)、両角國男 1)
第 44 回日本臨床腎移植学会(宝塚)2011.1.26～28
5. HCV(+)
長坂隆治、大塚聡樹
第 22 回東海北陸腎不全研究会(名古屋)2011.2.26

6. 生体部分膵・腎同時移植における病診連携について—2年間の報告—
豊橋市民病院 移植外科 1)、国立病院機構 千葉東病院 臨床研究センター2)、
大塚聡樹 1)、長坂隆治 1)、剣持 敬 2)、浅野武秀 2)
第 38 回日本膵・膵島移植研究会(奈良)2011.3.4～5
7. 改正臓器移植法と献腎移植～当院の提供経験から～
豊橋市民病院移植外科 1)、豊橋市民病院看護局院内移植コーディネーター2)、
大塚聡樹 1)、長坂隆治 1)、森山明美 2)、上村恵子 2)、中島佐江子 2)
第 27 回腎移植・血管外科研究会(札幌)2011.6.24～25
8. IVR 操作台式 X 線防護盤の γ 線遮蔽量の検討
大塚聡樹、長坂隆治
第 20 回日本腎不全外科研究会(横浜)2011.7.22～23
9. 膵・膵島移植における病診連携についての提言—生体部分膵・腎同時移植の
病診連携の経験から
豊橋市民病院 移植外科 1)、国立病院機構 千葉東病院 臨床研究センター2)、
大塚聡樹 1)、長坂隆治 1)、剣持 敬 2)、浅野武秀 2)
第 47 回日本移植学会学術総会(仙台)2011.10.4～6
10. 異種移植における凝固系制御の試み:ヒトロンボモジュリン遺伝子導入クローンブ
タの作出
プライムテック 1)、農生資研 2)、名大医 3)、岩本正樹 1)2)、矢崎智子 1)2)、
三輪祐子 3)、丸山彰一 3)、鈴木俊一 2)、橋本径子 1)、大石貴嗣 1)、劉 大革 3)、
長坂隆治 3)、小林孝彰 3)、大西 彰 2)
第 47 回日本移植学会学術総会(仙台)2011.10.4～6
11. 献腎移植後 33 ヶ月目に発症した肺アスペルギルス症の 1 例
豊橋市民病院 移植外科 1)、名古屋大学 免疫機能制御学 2)、
名古屋第二日赤 腎センター3)長坂隆治 1)、大塚聡樹 1)、小林孝彰 2)、
後藤憲彦 3)、渡井至彦 3)、打田和治 3)
第 47 回日本移植学会学術総会(仙台)2011.10.4～6

講演

1. 検尿のすすめ
山川大志
豊橋内科医会研修会(豊橋)2011.8.25

論文

1. 治療に難渋した血液透析施行中の小細胞肺癌の1例
豊橋市民病院 心臓血管・呼吸器外科 1)、移植外科 2) 大原啓二 1)、中山雅人 1)、
石川 寛 1)、加藤毅人 1)、成田久仁夫 1)、大塚聡樹 2)、長坂隆治 2)
腎不全外科 2011、腎と透析 69 巻別冊 2011、40-43
2. 生体部分腓・腎同時移植における病診連携について—2年間の報告—
豊橋市民病院 移植外科 1)、国立病院機構 千葉東病院 臨床研究センター2)
大塚聡樹 1)、長坂隆治 1)、剣持 敬 2)、浅野武秀 2)
移植 VOL.46 (6), 623-623, 2011
3. Role of Multifunctional Cell Cycle Modulators in Advanced Secondary
Hyperparathyroidism
1) Department of Transplant and Endocrine Surgery, Nagoya Second Red Cross
Hospital, Nagoya, and 2) Laboratory of Clinical Biochemistry, School of Pharmacy,
Tokyo University of Pharmacy and Life Science, Tokyo, Japan
Tetsuhiko Sato1), Yamato Kikkawa2), Ta
Therapeutic Apheresis and Dialysis 15 (Suppl. 1),26-32, 2011

著書

1. 献腎移植希望登録後の生活
長坂隆治
「これを見ればすべてがわかる 腎移植 2011」44-46
NPO 法人 日本移植未来プロジェクト、東京医学社
2. 海外の移植事情
長坂隆治
「これを見ればすべてがわかる 腎移植 2011」132-134
NPO 法人 日本移植未来プロジェクト、東京医学社
3. 日本国籍を持たない人は日本で腎移植ができますか？
大塚聡樹
「これを見ればすべてがわかる 腎移植 2011」132-134
NPO 法人 日本移植未来プロジェクト、東京医学社

4. 術前バーチャルクロスにより献腎移植しえた症例
豊橋市民病院 移植外科 1)、名古屋第二日赤 移植外科 2) 長坂隆治 1)、
大塚聡樹 1)、渡井至彦 2)、後藤憲彦 2)、平光高久 2)、山本貴之 2)、南木浩二 2)、
山永成美 2)、岡田 学 2)、打田和治 2)
腎移植症例集 2011 (第 44 回日本臨床腎移植学会記録集), 201-203,
日本臨床腎移植学会 監修、高橋公太・市川靖二 編集

5. 抗体関連拒絶反応制御のために DSA 定量は意義があるか？
名古屋第二赤十字病院 腎臓病総合医療センター 1)、名古屋大学免疫機能制御学
講座 2)、増子記念病院 3)、豊橋市民病院 4)、名古屋第二赤十字病院 HLA 検査室
5)、山永成美 1)、渡井至彦 1)、小林孝彰 2)、片山昭男 3)、泉 久美子 1)、
岡田 学 1)、野畑宏信 1)、山本貴之 1)、平光高久 1)、辻田 誠 1)、川口武彦 1)、
南木浩二 1)、後藤憲彦 1)、後藤芳充 1)、植木常雄 3)、長坂隆治 4)、大塚聡樹 4)、
黒木聖久 5)、武田朝美 1)、両角國男 1)、打田和治 1)
腎移植症例集 2011 (第 44 回日本臨床腎移植学会記録集), 206-209,
日本臨床腎移植学会 監修、高橋公太・市川靖二 編集

